

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医学総合医学教育研究分野 氏名 工藤 淳子
指導教授氏名	中路 重之
論文審査担当者	主 査 早狩 誠 副 査 黒田 直人 副 査 福田 幾夫
(論文題目) 青森県の児童生徒の喫煙状況の実態とその対策に関する研究	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>青森県は男女ともに全国有数の短命県であることが知られている。その原因の一つとして児童生徒も含めた県民の高い喫煙率が挙げられる。その対策として未成年への喫煙対策が有効であり、結果的にがんや生活習慣病の予防、そして短命県の返上に繋がることが考えられる。2007年青森県では県下全公立小中高生に対し喫煙状況調査を実施した。その結果では、年齢の上昇、母親の喫煙率、飲酒経験が生徒での高い喫煙率の原因として明らかになっていた。また、多くの児童生徒は、容易にタバコを入手できる環境も大きな原因であることも明らかとなっていた。その後2008年にタスポ(Taspo)の導入、そして2010年にタバコの値上げが施行され、児童生徒の安易な入手が困難な環境へ改善されている。本研究では改めて県内すべての公立小学5年生、中学1、3年生および高校3年生に在籍する1/3に無作為にアンケート調査を行い、各学年での喫煙率の性差、年齢差、地域差、家族の喫煙状況や喫煙契機、入手方法、飲酒状況等を調査した。これらの結果を2007年に行われた調査との比較検討を行った。</p> <p>その結果、青森県の児童生徒では顕著な喫煙率の低下が認められた。その理由として、①自由なタバコの購入が困難なタスポ効果、②タバコの値上げ効果、③家族の喫煙率の低下、④禁煙キャンペーンの効果が挙げられた。しかしながら、両親の喫煙率は未だ全国平均を大きく上回っていたことや母親の喫煙率の低下の割合が父親の割合を大きく下回っていたことから、児童生徒、特に女兒への影響がまだまだ懸念された。</p> <p>以上の結果から、未成年への喫煙予防対策の中心は、タバコの容易な入手を防ぐこと、喫煙による有害作用の教育や啓蒙が重要であることが再認識された。</p> <p>本研究は、青森県の児童生徒の喫煙について調査を行い、2007年時の調査結果との比較検討から、児童生徒の喫煙状況がある程度改善されたが、未だ喫煙が行われている原因を明らかにし、今後の重要な対策方法について方向性を示している。児童喫煙は全国においても大きな社会問題となっていることから、その実態や対策についてエビデンスを示した貴重な成果であり、社会医学において重要な内容を含んでおり学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌平成26年(Vol. 24)に掲載予定